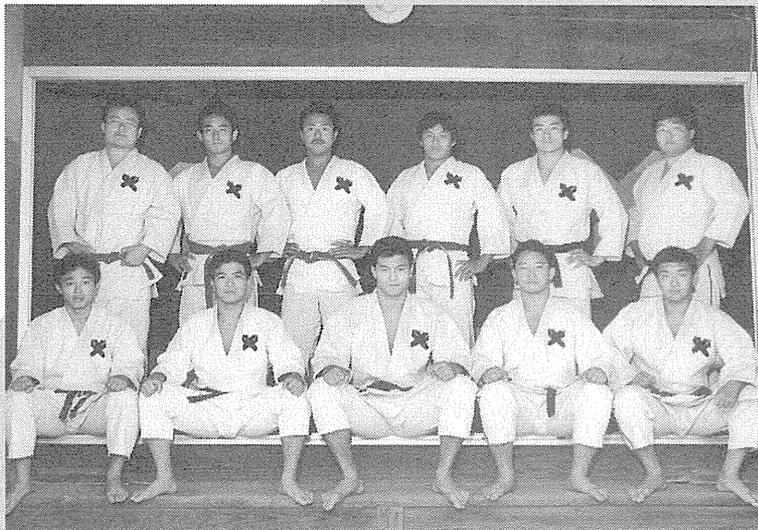


1987年度／昭和62年度（昭和62年4月～昭和63年3月）



役員

部長：阪埜 光男
名誉師範：清水 正一
師範：清水 直臣、安藤 勝英、加藤 雅晴
総監督：成毛 秀臣
監督：植村健次郎
主将：渡辺 新
主務：厚見 直哉
副将：篠田 幸彦、久保田正広
学連委員：井上 猛
4年生：加賀美有一、鈴木 康之、新井 基之、
山田 直、小林 達、清水 賢
体育会常任委員：渡辺 新、小野 英次、池田伸之、
小林俊二
副務：岩崎 清信
新人監督：谷岡 龍雄
日吉高コーチ：石本 千明、狩野 学
志木高コーチ：谷岡 龍雄、松井 聡司
普通部コーチ：真野 照久、政岡 和洋
中等部コーチ：小林 俊二、奥脇 直純
幼稚舎コーチ：村尾 洋介、辻 基之
合宿所主務：小野 英次

125周年に際して

渡辺 新

卒業して実社会に出てみると、人々の価値観の多様なことに驚きました。また、大勢の気持ちを一つに結びつける接点が見当たらないことに寂しさを感じます。ましてや、欧米で生活してみると、個人主義の発達からか、その気持ちはさらに強くなりました。

四年間生活した合宿所にも色々な考えの人々がおり、生活を共にしていました。規律と混沌が同居する不思議な空間でした。

漫画を読みながら、腹を抱えて笑っている男の傍らで、マクロ経済学と格闘している男がいる。狂気の宴会が繰り広げられる隣の部屋で、フランス語で寝言を言って周囲を驚かせる才人が目を閉じている。

パチンコの攻略本に真剣に取り組む風来坊と、司法試験の参考書を片手に熱くなる先輩が同じ部屋にいる。

こんな人々がなぜ一緒に生活することができたのかは今もって謎です。おそらく、激しい稽古が我々を一つにしていたのでしょう。柔道に全神経を集中することが出来たからこそ、多様性を許せたのかもしれない。

あれから、かなりの月日が経ちます。各自がそれぞれの生活を持っています。それでも、皆で集まれば、一瞬にして"あの時"の"あの気持ち"に戻れる喜びは格別です。今でも皆の心を一つに結

びつける魂を与えてくださった数多くの方々に、心より感謝させていただきたく思います。そして、必ずこの御恩返しをせねばとの責任を感じます。125年を超えて貫かれる魂に、少しでも触れさせていただけたことを、心より御礼申し上げます。

ひとつの思い出

厚見 直哉

「おい、主務。あんなダークホースがノーマークとは一体どういうことだ！」
私にとっての最後の早慶戦は、相手側新人の思わぬ活躍が大きな一因となり、苦杯を舐めた。敗れた直後、監督が厳しい表情で私に言われたのが冒頭の言葉である。

これは当時の私にとっては極めて唐突であり、かつ大いに不満でもあった。一応は出身高校や主な戦歴、得意技は調べたつもりであったし、ただ単にむこうが強かったから不覚を取ったのではないか、だからそんなことを言われる筋合いはない、咄嗟にそんな思いが頭をよぎった。

都合の悪いことは忘れがちな私にしては珍しく、その後このひとは何故か頭の片隅にはつきりと残った。やがて「どうして監督はあのようなことをおっしゃったのか」という疑問が湧いてきた。

答えは仕事の中に見つかった。自分の理解では、仕事は大きく二つに大別できる。実務的な部分と創造的な部分である。実務なしには創造的な仕事はできないが、だからといって実務に専念すると単なる業務担当者となり単調な日々を過ごすこととなる。全身全霊を傾け実務に臨み、そこで得た知見を基に、新たな目標とその成果を創り出していくことこそが仕事である。その過程においては、極端に言えば定められた担当範囲はない。

ここに至り、初めてこのひとことが非常に重いことを痛感した。いかに稽古せずに楽するかに熱心だった私は、その当然の報いとして早慶戦には一度も出場できなかったが、柔道そのもので貢献できないどころか、勝手に主務業務を規定しそれに甘んじ、結果仲間を敗戦に導くような負の貢献までしていたのである。

同じ稽古をサボるのであれば、情報収集なり何なり、他の仲間がしたくてもできないこと、皆は気付いていないがやらなければいけないことが、何故できなかったのか。卒業数年後にこんな忸怩たる思いをすることは予想すらできなかった。そして激しく理解できた。いつもは名前で学生を呼ばれる監督が、何故「厚見」ではなく「主務」と言われたかを。

本業の柔道も拝命した主務もモノにならずに社会人となった私ではあるが、この重いひとことを僅かでも理解できるようになってから、会社で多少なりとも同じ轍を踏まぬよう心掛けている。そして、素晴らしい先輩後輩、友人、そしてここに述べたような貴重な経験をこんな私にももたらしてくれた塾柔道部に一生涯感謝の念を抱きたい。

試 合 記 録

■第36回 東京学生柔道優勝大会 昭和62年5月31日 日本武道館

	1 回戦	本 塾	7	-	0	明星大学
		石井 敏 3年	○	片羽絞		笠 井
		久保田正広 4年	○	一本背負い		堀 越
		石本 千明 3年	○	崩れ上四方固め		依 田
		小野 英次 3年	○	後袈裟固め		落 合
		狩野 学 2年	○	袈裟固め		今 村
		篠田 幸彦 4年	○	縦四方固め		相 馬
		渡辺 新 4年	○	腕絡み		依 田
	2 回戦	本 塾	1	-	3	大正大学
		石井 敏 3年		引分け		荘 司
		久保田正広 4年		払腰	⊖	近 野
		小野 英次 3年	⊖	小内巻き込み		塩 貝
		狩野 学 2年		引分け		永 島
		新井 基之 4年		内股	○	鯖 戸
		渡辺 新 4年		引分け		北 村
		篠田 幸彦 4年		内股	○	大 庭

■第6回 東京学生柔道体重別選手権大会 昭和62年9月6日 日本武道館

-65kg級	1 回戦	清水 賢 4年	○	大外刈り	植松浩二	東京学芸大
	2 回戦	清水 賢 4年		背負投げ	○ 中西進	日体大
-71kg級	1 回戦	真野 照久 2年	○	体落とし	広瀬勝彦	専修大
	2 回戦	真野 照久 2年	○	不戦勝	土谷健太郎	立教大
	3 回戦	真野 照久 2年		崩れ上四方固め	○ 甘利政一	亜細亜大
	2 回戦	石本 千明 3年	○	崩れ上四方固め	森岡真	玉川大
	3 回戦	石本 千明 3年	○	崩れ上四方固め	水吉元巳	学習院大
	4 回戦	石本 千明 3年	○	合せ技	増井芳和	東京学芸大
	5 回戦	石本 千明 3年		崩れ上四方固め	○ 吉岡宏志	明大
	敗者復活戦	石本 千明 3年		内股	○ 小野里武	日体大
	敗者復活戦	石本 千明 3年		小外刈り	⊖ 中島宏文	亜細亜大
	1 回戦	小林 達 4年		不戦勝	○ 尾崎修	法政大
	2 回戦	加賀美有一 4年	○	崩れ上四方固め	市川直也	明星大
	3 回戦	加賀美有一 4年		腕拉ぎ十字固め	○ 徳安秀正	日体大
	1 回戦	久保田正広 4年	○	一本背負い	長浜満	帝京大
	2 回戦	久保田正広 4年	○	不戦勝	大阪太郎	桜美林大
	3 回戦	久保田正広 4年	○	一本背負い	土居竜一	東京学芸大
	4 回戦	久保田正広 4年		一本背負い	⊖ 吉岡宏志	明大
-78kg級	2 回戦	政岡 和洋 2年		送り襟絞め	○ 玉井孝志	順天大
	2 回戦	石井 敏 3年	○	縦四方固め	田島義之	立教大
	3 回戦	石井 敏 3年		内股	○ 鈴木大章	駒沢大
-86kg級	2 回戦	小林 俊二 3年		体落とし	○ 村山幸孝	大東文化大
	2 回戦	篠田 幸彦 4年		返し技	⊖ 沢智樹	亜細亜大
-95kg級	1 回戦	小野 英次 3年		体落とし	⊖ 橋本年弘	明大
	1 回戦	渡辺 新 4年		裏投	⊖ 鈴木和幸	日本大
	1 回戦	鈴木 康之 4年		横四方固め	○ 草場和之	専修大
95kg超級	1 回戦	新井 基之 4年	○	合せ技	山本順	杏林大
	2 回戦	新井 基之 4年	○	不戦勝	村上嘉宏	東海大
	3 回戦	新井 基之 4年		横四方固め	○ 藤田輝光	国学院大
	敗者復活戦	新井 基之 4年		合せ技	○ 穴吹賢一	国士館大

■第39回 早慶対抗柔道戦 昭和62年10月10日 日吉記念館

本	塾			○	早稲田大学	5人残し
						優秀選手：小野英次、石井敏、狩野学
石本	千明	3年	引分け		道 脇	
新井	基之	4年	引分け		森	
土屋	嘉広	1年	引分け		長 瀬	
久保田	正広	4年	合せ技	○	森 川	
小林	俊二	3年	内股	○	森 川	
政岡	和洋	2年	内股	⊖	森 川	
松井	聡司	2年	大外刈り	○	森 川	
山田	直	4年	引分け		森 川	
狩野	学	2年	大外刈り	○	川 地	
狩野	学	2年	崩れ上四方固め	○	佐 野	
狩野	学	2年	崩れ上四方固め	○	堀 内	
狩野	学	2年	大外刈り	⊖	三 船	
狩野	学	2年	大外刈り	○	吉 村	
谷岡	龍雄	3年	大内刈り	○	吉 村	
加賀美	有一	4年	内股	○	吉 村	
真野	照久	3年	背負投げ	○	吉 村	
真野	照久	3年	三角絞	○	松 島	
清水	賢	4年	合せ技	○	松 島	
石井	敏	3年	縦四方固め	○	松 島	
石井	敏	3年	合せ技	○	昌 谷	
石井	敏	3年	背負投げ	○	鈴 木	
石井	敏	3年	内股	○	岡 村	
鈴木	康之	4年	合せ技	○	岡 村	
小林	達	4年	送り足払い	○	岡 村	
小野	英次	3年		○	岡 村	
小野	英次	3年	注意	⊖	坪 川	
小野	英次	3年	合せ技	○	小 泉	
池田	伸之	4年	支釣込み足	○	小 泉	
篠田	幸彦	4年	背負投げ	○	小 泉	
渡辺	新	4年	大外刈り	⊖	小 泉	
渡辺	新	4年	横車	○	小 泉	
					村 本	
					伊 藤	
					高 木	
					亀 山	

■第19回 全日本柔道新人体重別選手権大会東京予選 昭和62年10月11日 講道館

-71kg級	1回戦	鈴木 学	1年		背負投げ	○	大山吉男	順天大
	1回戦	奥脇 直純	2年	○	裏投		鈴木正宣	日本大
	2回戦	奥脇 直純	2年		大外刈り	○	本田英明	東海大
-78kg級	1回戦	石川 琢也	2年		背負投げ	⊖	金沢達也	順天大
	1回戦	松井 聡司	2年	⊖	判定		殿岡秀夫	東洋大
	2回戦	松井 聡司	2年		内股	⊖	岡本和昭	日体大
-86kg級	1回戦	渡辺 裕二	1年		横四方固め	○	和田泰二	国学院大
	1回戦	土屋 嘉広	1年		縦四方固め	○	柏木秀和	東海大
95kg超級	1回戦	狩野 学	2年	○	上四方固め		河野俊介	一橋大
95kg超級	2回戦	狩野 学	2年		内股	○	桑嶋渡	世田谷学園高

■第30回 東京学生柔道二部優勝大会 昭和62年10月25日 国士舘大学柔道場

1回戦	シード						
2回戦	本塾	6	-	0	東京経済大		
	石本 千明 3年	○	崩れ袈裟固め		大 西		
	土屋 嘉広 1年		引分け		佐 藤		
	石井 敏 3年	○	合せ技		広 沢		
	狩野 学 2年	○	大外刈り		池 田		
	真野 照久 2年	○	体落し		栗 原		
	小野 英次 3年	○	合せ技		松 田		
	渡辺 新 4年	○	大外刈り		根 本		
3回戦	本塾	7	-	0	玉川大		
	石本 千明 3年	⊖	背負投げ		梶		
	谷岡 龍雄 3年	○	大外刈り		森 河		
	狩野 学 2年	⊖	内股		八 木		
	渡辺 新 4年	○	袈裟固め				
	小野 英次 3年	○	後袈裟固め		阿 部		
	政岡 和洋 2年	○	袈裟固め		矢 下		
	石井 敏 3年	○	崩れ上四方固め		吉 田		
準決勝	本塾	3	-	1	青山学院大		
	久保田正広 4年		引分け		水 野		
	狩野 学 2年		引分け		幸 田		
	石本 千明 3年	⊖	背負投げ		東 本		
	小野 英次 3年	○	横四方固め		丸 川		
	谷岡 龍雄 3年		引分け		高 島		
	石井 敏 3年	○	上四方固め		石 本		
	渡辺 新 4年	⊖	大内刈り		山 本		
決勝	本塾	3	-	2	東京農業大	優勝	
	久保田正広 4年	○	背負投げ		山 口		
	石本 千明 3年		注意	⊖	和 泉		
	狩野 学 2年	⊖	内股		菊 地		
	小野 英次 3年		引分け		池 田		
	石井 敏 3年		裏投	⊖	轡 田		
	篠田 幸彦 4年	⊖	支釣込み足		金 子		
	渡辺 新 4年		引分け		井野口		

優秀選手：久保田正広、狩野学

一本会

会の名称：一本会（ひととかい）

会の趣旨：慶應義塾中等部柔道部のOB会

発 足：平成8年（1996年）に第1回総会を開催

会 長：吉村 洪先生（中等部）

事務局：大原 司郎（中等部17回生） tel03-3792-5258（共栄出版）

後藤 邦夫（中等部19回生） tel03-3474-0901（ヤフタヤ）

「一本会」という名は長年、中等部柔道部の部長をお勤め頂いた吉村先生に付けて頂きました。吉村先生はS35年卒で、柔友会の橋本光蔵先輩等と親しく、今でも時折柔道部の行事にお見えになります。

この会は、かつて都大会で優勝した中等部19回生の皆様が中心となって設立され、毎年原則として9月に総会を開催して親睦を深めています。総会は近年、三田の山食で開催しており、だいたい40～50名程度が出席しています。会員数は現在、300名くらいです。

会の常連メンバーは、横山晃（19回生）、藤田哲也（同）、畑中芳実（同）、後藤邦夫（同）、竹内友康（20回生）、浅野祐司（22回生）の各氏。成毛秀臣先輩や廣瀬久也先輩にもよく顔を出して頂いています。

他のこうした会と同様に、若年層の参加が少ないのが残念ですが、2001年の総会には小林俊二（33回生、平成元年卒）、本多諭（38回生、平成6年卒）、木村総一郎（現塾高3年生）が参加しました。

高校や大学で柔道をしなくても、このような会が有るとするのは、中等部柔道部出身者にとり、とても素晴らしい事だと思います。今まで参加した事のない中等部出身の皆さんも、是非一度ご出席してみてください。

小林俊二 記

